

瀧上乃三船山從秋津邊來鳴度者誰喚兒鳥

〔萬葉集十 春雜歌〕詠鳥

吾瀨子乎莫越山能喚子鳥君喚變瀨夜之不深刀爾  
春日有羽買之山從猿帆之內敵鳴往成者孰喚子鳥  
不答爾勿喚動會喚子鳥佐保乃山邊乎上下二  
朝霧爾之怒々爾所沾而喚子鳥三船山從喧渡所見

〔古今和歌集一 春〕題しらす

よみひとしらす

遠近のたづきもしらぬ山中におぼつかなくもよぶこどりかな

〔後撰和歌集二 春〕よぶこどりをきゝてとなりの家にをくり侍ける

春道つらき

我宿の花にななきをよぶこどりよぶがひありて君もこなくに

〔易林本節用集加形〕良鳥カホトリ俗曰鷺鷥

〔八雲御抄三 下〕良鳥 かほ鳥はかすがやまによめりかたこひするものといへりよるひるたえ

ず戀すといへりまなくゑばなくはるののといへり源氏物語にも有是其鳥と定歟但定家不  
知之いふ推之只うつくしき鳥歟但未決之

〔萬葉集三 雜歌〕山部宿禰赤人登春日野作歌一首并短歌

春日乎春日山乃カホトリ容鳥能間無數鳴雲居奈須心射佐欲比カホトリ下

〔萬葉集略解三 下〕かほ鳥は呼子鳥の一名ならんと翁カホトリ賀茂はいはれき

〔萬葉集十 春相聞〕寄鳥

容鳥之間無數鳴春野之草根之繁戀毛爲鳴

〔伊勢集下〕おとは山木の下風にかほどりのみえがくれせし聲の戀しさ